

まちの学校教育を発信します！

皆さんこんにちは。

教育委員会教育長の香田静夫です。



今年度、町内の小中

学校では、「たくましく豊かな心をもった児童生徒の育成」という目標を共有し、一人一人に「生きる力」を育み、ふるさとに誇りと愛着をもち、相手を思いやる心を育てようと、教育活動の工夫改善に努めています。

そこで、広報「いびがわ」今月号をスタートに、各学校の特色ある教育活動について紹介する特集を掲載し、町民の皆さんに揖斐川町の学校教育について知ってもらい、応援していただくことを考えました。まずはキックオフとなる本号では、揖斐川町教育委員会の取組みを紹介させていただきます。

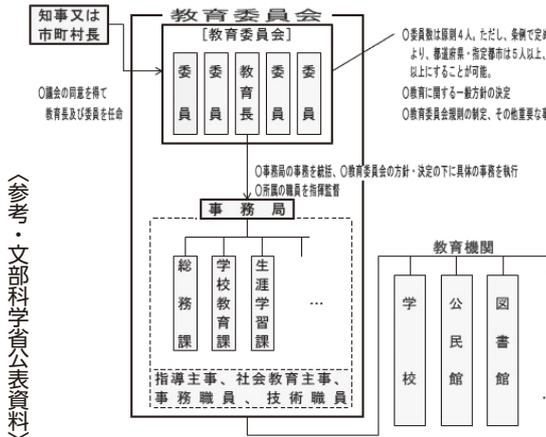
「教育委員会」って何？

名称は聞いたことがあるけれど、詳しくはよく分からないという方も少ないと思います。

教育委員会は、教育長と教育委員による合議体で、地方公共団体としての意志決定を自ら行い、外部に表示できる機関として、すべての自治体に設置されています。一般的には次の図のように組織されており、教育行政における重要事項や基本方針を決定するとともに、教育長がその事務を執行しています。

なお、教育長および教育委員は、地

方公共団体の長が議会の同意を得て任命し、任期は教育長3年、教育委員4年とされ、再任も可能となっております。揖斐川町では、月1回の定例会と研修会および臨時会等を開催しており、事務局は、役場3階に学校教育課と社会教育課を置き、地域の学校教育や社会教育、文化、スポーツ等に関する業務を担当しています。



＜「仏教と道徳」をテーマにした研修＞

教育委員の専門性を活かした研修と提案

本町の教育委員は、中部学院大学教育学部長(小林直樹委員)、西濃学園高校教員(折戸克明委員)、元幼稚園教諭(松井乃里子委員)、会社勤務の傍ら伝統文化の伝承に尽力されている保護者(八幡雅夫委員)の4名です。

こうした皆さんの高い専門性を、互いのスキルアップや学校教育や社会教育の一層の充実に活かさない手はないと考え、毎月の定例会終了後に時間を設け、具体的な研修と提案を行っています。

この日は、「幼児教育の大切さ」をテーマに、松井委員が幼稚園の先生さんながらに腹話術を使って講話をされました。



＜幼児教育について学び合う研修＞

「幼児教育では、子どもたちが遊びを通して考える力や創造性、社会性等を育むことを大切にしています。その

ため、子どもたちの好奇心を喚起する環境構成の工夫や気付きを引き出すような教員の関わりが重要になります。小学校の先生方にも、こうした指導・援助がなされるよう期待しています。」このほか、今日的な教育課題等を取り上げて学び合っています。

「教科書採択のしくみ」	(6. 5. 31)
「被災地支援に学ぶ」	(6. 6. 26)
「揖斐川町の薬草文化」	(6. 9. 30)
「いじめの未然防止」	(6. 10. 21)
「不登校児童生徒支援」	(6. 11. 26)
「幼児教育の大切さ」	(6. 12. 24)
「仏教と道徳」	(7. 1. 31)
「ポジティブ行動支援」	(7. 2. 17)
「教育委員会はどこ?」	(7. 4. 28)
「学校教育の在り方」	(7. 5. 26)
「揖斐川町こども計画」	(7. 8. 26)
「未来につなぐ食育」	(7. 11. 19)

まちの教育をもっと魅力あるもの にしたい！

「行政」と「現場」は、車の両輪の如く連動することが不可欠です。教育行政の一端を担うまちの教育委員会は、これからの研鑽を積み、所管する「現場」の力になれるよう頑張っていきます。

問 学校教育課 TEL 23-0115



「揖斐川町学校教育の在り方審議会」からのお知らせ

(教育委員会)

学校教育の在り方を考える

この度、揖斐川町における児童生徒数の推移を踏まえた適正規模、適正配置および教育環境の整備等について町民の皆さんと一緒に検討していく必要があると考え、町長の諮問機関として「揖斐川町学校教育の在り方審議会」(以下、審議会)を設置しました。

審議会では、学校の統合・再編をどうするか、ということだけでなく、これからの変化の激しい社会をよりよく生き抜く子どもたちを育てるため、どのような環境を整え、どういった教育を行っていくとよいのかなどについて、今後の方針を示していただくよう考えています。

審議会は、学識経験者、地域住民、保護者、教職員等、13名の委員で構成する「通常会議」と中学生、高校生、大学生等を加えた20名の委員で構成する「拡大会議」とで組織し、今年度と来年度の2年間をかけて「答申」をまとめていただくこととしています。

第1回審議会の報告

第1回審議会(拡大会議)は、7月30日に開催しました。

会議では、委嘱状の交付に続き、委員長および副委員長の選出を行い、委員

長には、秋山晶則委員(岐阜聖徳学園大学教育学部長)、副委員長には、佐木みどり委員(揖斐幼稚園理事)がそれぞれ就任されました。

その後、町長より、将来を見据えた小中学校に必要な教育の在り方について、基本方針等を提言されるよう、審議会に「諮問」するとともに、「揖斐川町の学校教育の現状と課題」について説明しました。

意見交換では、委員の皆さんから、次のような意見をいただきました。

- ・ 少人数の学校にもよいところはあられるけれど、社会性を身に付けるには、多くの友達と関わるができるような環境も必要ではないか。
- ・ これまで大切にされてきた地域に根差した教育を今後どのように引き継いでいくとよいのか。
- ・ 揖斐川町では、タブレット活用がとでも進んでいるので、今後もICTを活用した教育を充実させてほしい。
- ・ 小学生と中学生が一つの校舎で学び、生活する「義務教育学校」という形態もあると聞いたが、具体的なメリットやデメリットを知りたい。



第2回審議会の報告

第2回審議会(通常会議)は、10月9日に開催しました。

会議では、町民や児童生徒、教職員の皆さんを対象にした「アンケート調査」を実施すること、小学校区ごとに「地区集会」を行うこと、事例紹介を交えた「シンポジウム」を開催することを決定しました。

まず、アンケート調査は、揖斐川町の教育に対する町民の皆さんの意見を把握し、今後の学校教育の在り方を検討するための基礎資料とすることを目的に実施することとしました。

また、地区集会は、町民の皆さんの意見を対面で聴取することを目的に、審議会委員と教育委員会事務局が参加して開催することとし、地域の大人から子どもまでどなたでも参加していただけることとしました(実施中)。



<第1回 審議会(拡大会議)>

そして、シンポジウムでは、先行する地域の事例や教育制度の効果に学び、今後の学校教育の在り方を町民の皆さんと共に考える契機とすることを目的に開催することとしました。

特に、事例発表1では、学校統合に込められた地域住民の願いや自治体の意向、統合にあたっての課題等について話していただきます。

また、事例発表2では、義務教育学校に関するメリット・デメリットについて示唆いただくとともに、設置が進められている現状について話していただきます。

「学校教育の在り方シンポジウム」
〈日 時〉12月13日(土)
13時30分～16時
〈会 場〉揖斐川町地域交流センター
はなもも・ホール
(申し込み不要、入場無料)

インフォメーション

これまでの審議会の議事録・配布資料については、揖斐川町教育委員会ホームページにて公開しています。

